平成２６年６月１２日

平成２６年度広島県道徳教育研究協議会（第１回）

「子どもの実態を踏まえた道徳教育の在り方」

香川大学教育学部　七條正典

1　子どもの実態を踏まえることの意味～内面形成と学びの主体化～

(1) 目の前の子どもと向き合うことから出発する

(2) 表（言動）への指導→内面（心）への働きかけ

(3) 子ども理解の重要性

(4) 授業ありき・ねらいありき・資料ありき

→子ども＋ねらい＋資料

2　子どもの発達段階を踏まえた指導～学びへの意欲の高まりと価値観形成～

(1) 発達段階と学びの深まり；「正直・誠実」低学年→高学年

(2) いじめ（生命尊重）；「わたしのいもうと」；社会的生命の視点からいじめを考える

(3) 「二人の弟子」；大人でも考え込む資料（噛みごたえのある資料）

(4) 「美しい母の顔」；「間い」の大切さ・・・

「きれいな顔」と「美しい顔」は違うのか？　（切り返し発問）

(5) 魅力ある教材の開発や活用；ふるさと教材「栄冠は君に輝く」・・・

失敗や挫折からの立ち直り；生き方モデル

(6) 各内容項目（小学校低・中・高学年、中学校）の各学年段階の内容の吟味

→「私たちの道徳」の活用　※「子どもの生命観」

3　「私たちの道徳」の活用について

(1) 「心のノート」作成の経緯とその内容

(2) 「私たちの道徳」への全面改定とその内容

(3) 両者の比較から、その活用の在り方を考える